

重点推進方策Ⅵ

二つのアルプスに囲まれた快適な農村環境の創造

農村環境の維持と中山間地域の活性化

鳥獣被害対策技術の導入

■背景とねらい

近年、上伊那地域では野生鳥獣による農産物被害が増加傾向にあり、生産者の意欲低下がみられる。獣害対策電気柵の普及を行い、被害を減少させるため、電気柵設置の要望があった地域に対して実証展示を実施した。

■本年度の取組と成果

1 取組内容

(1) 実証展示ほ(宮田村及び中川村)

令和6年6月から9月にかけて、宮田村大田切地区のトウモロコシほ場にシカ対策用電気柵の展示ほ場を設置した。9月から10月にかけて中川村飯沼地区の小規模ハウスに中型獣侵入防止通電ネット「かたまったくん」を設置した。週に1度ほ場を巡回し、電気柵の管理状況とセンサーカメラの記録を確認した。

(2) 地域への情報提供

宮田村農業技術連携会議のメンバーと電気柵の設置及び巡回を実施した。設置に伴い、加害獣の生態や電気柵の設置事例などについて情報提供した。

2 活動成果

電気柵設置以降、ほ場内への侵入を抑制し、被害をゼロに抑えることができた。



写真 「かたまったくん」設置の様子

■今後の課題と対応

次年度は、他地域へ新たに電気柵実証展示ほを設置し、電気柵の効果と維持管理方法を周知するとともに、生産者の防護意識を啓発する。

(地域第二係 坂本)

緊急要請への対応

■背景とねらい

今年度、全国的にツキノワグマの目撃及び人身被害が急増した。人身被害を防止するため、長野県野生鳥獣被害対策本部からツキノワグマ出沒警報(6月5日～8月31日、9月9日～11月14日)が発令され、特に目撃件数が多い地域には点検を実施するよう依頼があった。

上伊那野生鳥獣被害対策チームでは、目撃があった地域の点検実施と、被害防止に向けた啓発を行った。また、伊那市と南箕輪村においては家畜飼料ほ場でのツキノワグマ対策について要望があったため、検討会を開催した。

■本年度の取組と成果

1 集中点検及び緊急点検

上伊那野生鳥獣被害対策チームでは、信州大学の瀧井クマ対策員に依頼し、合同で6/21～10/1の計8回点検を実施した。目撃地周辺では電気柵の設置及び緩衝体整備が適切にされていない地域が見受けられた。

2 家畜飼料ほ場におけるクマ対策検討会

令和6年12月13日に標記検討会を開催し、対策チーム、伊那市、南箕輪村でツキノワグマによる被害状況及び要望の共有、意見交換を実施した。関係者での情報共有の重要性について再確認した。



写真 クマによって破壊された蜂箱

■今後の課題と対応

対策チームと関係機関との情報共有を円滑に行い、被害防止に向けて努める。

(地域第二係 坂本)